

大和田機場 春の一般開放開催

平成26年4月5日（土）に千葉用水総合管理所において、従来「大和田機場さくらまつり」として親しまれていたイベントを、いつもは見られない施設を開放して印旛沼のことをより知ってもらおうと、装いも新たに『大和田機場春の一般開放』として開催しました。

当日は、場内に植樹されている桜がタイミングよく満開となり、春のあたたかい日差しの下、約500名の方が大和田機場を訪れてくださいました。



今年は、千葉県のかたちをかたどったマスコットキャラクター「チーバくん」も遊びに来てくれ、その場で写真をプレゼントする写真撮影会を行いました。子供たちに大人気だったのはもちろん、大人の方もチーバくんに大喜び！握手したり、おなかをさすったり、抱きついたり。大人気のチーバくんでした。



「知ってみよう！いんばぬま」と題して、「なおす」「つかう」「まもる」をコンセプトに、印旛沼の関係機関である農林水産省関東農政局印旛沼二期農業水利事業所、印旛沼土地改良区（水土里ネット印旛沼）、水資源機構千葉用水総合管理所の3か所の展示ブースをめぐるスタンプラリーを実施しました。機構ブースでは、管理開始以降最高水位（Y.P.4.17m）を記録した台風26号に関連するパネルや今年2月の季節外れの大和田機場洪水排水の時に300匹（総計約6トン）も大和田機場に來襲した巨大魚ハクレンの実物大模型に注目が集まっていました。スタンプラリーには千葉県水道局にもご協力いただき、みなさんに喜んでいただけました。



第1ブース「なおす」印旛沼二期農業水利事業所



第2ブース「つかう」印旛沼土地改良区



第3ブース「まもる」水資源機構千葉用水総合管理所



また、大和田機場のポンプ試運転では、毎秒15トンのポンプの運転が開始されると「すごい〜」など周りから大きなよめきが聞こえました。このポンプ試運転にあわせ「大和田機場ポンプ見学ガイドツアー」も行い、子どもを中心に約50名が参加しました。実際のポンプを間近で見ながら印旛沼の水位管理の話やポンプの仕組みなどの説明するガイドツアー。チーバくんも大和田機場の中までポンプを見に来てくれました。

あっという間に、午後3時の閉場となり名残惜しそうに場内を走り回る子どもたち。来年も「すべて手作り」で開催したいと思います。



◇そのほかのコーナー



←「花のかざぐるま」の無料製作体験コーナー



←「印旛沼の歴史に関する講演会」
郷土歴史作家小林千代美先生による講演会



←「土のうを持ってみよう」コーナー
台風26号の時に地元の方のご協力で500個積み上げ、越水を防いだことをPR。